



この夏は酷暑でした。正確な気温は記憶にありませんが、証拠に、私の体に「酷」と3度も刻印を押して過ぎ去りました。二度にわたる熱中症とドメに肺炎というお土産を持ってきてくれたのです。よく言われている、高温多湿のなかで、無理な行動をしたのではありません。けれども、高齢化により、体の中で生理的代謝のバランスが壊れると、自力で調整する力がなくなることを実感したということでしょうか。突然、「晴天の霹靂」という感じで、ダウンしたのです。そして、一番の弱点に集中してダメージが来たのです。私にとっては発熱という形です。「肺炎」をいずれ最期の時にはとスケジュール的には許容範囲に入れていましたが、番狂わせにやってきた(?)のは残念です。でも、時を決められないからこそ、「晴天の霹靂」なのでしょうね。

「晴天の霹靂」という言葉は、ピノキオの主題歌“*When you wish upon a star*”を歌った時には世界が180度的に、ブルーからハッピーに展開するという、突然のラッキーを夢想する言葉として、頭に残っていたのですが、今回の私の「晴天の霹靂」は、ブルーからグレイに落ち込んだと言うわけでした。でも、何とか回復し、仲秋の名月を眺める元気を与えられました。学生時代には夢見る乙女だった私たちは「最期」を想定しながらも、仲秋の名月、スーパー・ムーンと、夜空を眺めて喜んでいたのは去年でした。そんな去年を思い出しながら、静かに月を眺めて、主題歌を口ずさんでみました。心から願ったことは叶えられると歌う主題歌の、運命の女神は“*Fate is kind*”と言われています。運命の女神が聖書の言葉をにっこりと伝えてくれたような気がしました。

あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。(コリ10:13)

本当にその通りで、だいぶ元気になり、一週間ほどで、「仲秋の名月」というトピックスがニュースに流れると、月を見る楽しみも味わったのです。そのまま天国に行っていたとしたら、もっと「晴天の霹靂」で「金色に輝く虹色」(?)を体験することになるかもしれません。

「晴天の霹靂」は、2016年10月10日に全国ネットで販売になる青森県産の超おいしいお米として宣伝されている銘柄とのことです。実はこの日に、私は青森に行くことになっていて、すでに切符を買っているのです。きっと、現地で「晴天の霹靂」を堪能できるのではないかと楽しみにしています。どんな味でしょうか。ハッピーな味であることを願っています。